

報告

「生活行為向上マネジメント」手法の基礎作業療法学教育への導入の試み

A Trial Study of the Introduction of the “Management Tool for Daily Life Performance” (MTDLP) to the Basic Occupational Therapy Education Program

武井 麻喜¹⁾ 寺山 久美子¹⁾

要約：「生活行為向上マネジメント」は、「作業は人を元気にする」ツールとして、平成20年度に一般社団法人日本作業療法士協会が開発した臨床場面での手法であり、卒前教育ではまだ導入されていない。そこで本研究を通して、「生活行為向上マネジメント」の手法を学生間で実践させることで、この手法が、学生の基礎作業療法に対する理解へのさらなるツールとなり得るか検討した。「作業活動分析学実習」の授業の1回目に先行研究者による、「生活行為向上マネジメント」についての講義を実施した。残りの授業14コマで、「生活行為向上マネジメント」の手法を学生用に一部改変しながら実践した。実践後には「作業はひとを元気にする」ことについてアンケート調査を実施した。アンケートでは、1名を除き35名が授業を通して、「意味のある作業（生活行為）」が見つかったと答えた。さらに全員が授業を通して「作業は人を元気にする」ことが実感できたと答えた。学生は「作業は人を元気にする」ことを早期に実感でき、その理解を深めることができたと考えた。それは本来目指すべき作業療法の理解のきっかけとなり、作業療法への動機づけとなり、また学生が臨床実習および卒後において能動的に行動できるきっかけとなると考えられた。

キーワード：生活行為向上マネジメント、基礎作業療法学教育、アンケート調査

I. はじめに（研究の背景）

高齢社会の現代、高齢者が地域で生活していくことは大きな課題であり、要介護となることを予防するために様々な取組みが地域リハビリテーションにおいてなされている。「生活行為

向上マネジメント」の手法もその一つである。

これは、村井・寺山・田中¹⁾らの予備的研究をもとに平成20年度に（社）日本作業療法士協会が障害をもった高齢者向けに開発したツールある。“作業は人を元気にする”を基本理念としたリハビリテーションの立場にたった介入モデルで、当事者が主体的に意欲を引き出す生活行為・作業を見つけ、プログラムを企画し、実践し、検証し・向上させることができるとい

Maki Takei

E-mail : takeim@kawasakigakuen.ac.jp

1) 大阪河崎リハビリテーション大学
リハビリテーション学部 作業療法学専攻

うものである。

これまで作業療法教育において、“作業とは”“作業療法とは”、という基本理念は「作業療法概論」「基礎作業学」等を通して学生に伝え、「基礎作業学演習」で作業の手順、方法を実習し、「作業活動分析学・実習」でその作業についてどのような治療効果があるのかの分析を行うといったことはされてきた。

本来これら各講義の内容には繋がりがあり、統合した捉え方が必要となる。学生がその繋がりを解釈して実感することで、臨床実習および卒業後の臨床現場において能動的に行動でき、地域社会に貢献できる作業療法士となり得る。しかし、実際に学生が在学中にこれら科目を系統立てて捉え、臨床実習に臨んでいるまでには至っていない。

ところで、「生活行為向上マネジメント」は高齢者向けのツールで、先行研究²⁶⁾もあるが、作業療法学生の教育プログラムに導入した例はまだない。そこで、この「生活行為向上マネジメント」という介入モデルを2年次科目の基礎作業学科目である「作業活動分析学」「作業活動分析学実習」の授業の中に導入し、教員が与えた作業ではなく、学生が主体的に自分自身の意欲を引き出す生活行為・作業を見つけ、それを遂行していくことで、学生は自らの生活行為を向上させ“作業は人を元気にする”ことを早期に実感でき、その理解を深めることができると考えた。それは本来目指すべき作業療法の理解のきっかけとなり、作業療法への動機づけとなり、またその後学生が臨床実習および卒業後の臨床現場において能動的に行動でき、地域社会に貢献できる作業療法士となり得ると考えられた。

II. 目的

「生活行為向上マネジメント」は、平成20年

度に一般社団法人日本作業療法士協会（以下、OT協会）が開発した臨床場面での手法であり、卒前教育ではまだ導入されていない。そこで本研究を通して、「生活行為向上マネジメント」の手法を学生間で実践させることで、「生活行為向上マネジメント」の手法が、学生の基礎作業療法に対する理解へのさらなるツールとなり得るか、基礎作業療法学教育への導入を試みる。具体的には、臨床で使われている生活行為向上マネジメントを学生教育用に改変し、このツールを使っての授業プログラムを立案・実施し、有効性を検討する。

III. 対象

対象は本学作業療法学専攻2年生で前期科目「作業活動分析学」の単位を取得した「作業活動分析学実習」履修者36名（男24名、女12名）。対象者には本授業の目的および趣旨を説明し同意を得た。なお、本研究は大阪河崎リハビリテーション大学研究倫理委員会の承認を得ている（承認番号OKRU26-A220）

IV. 研究の対象となった授業の概要（「作業活動分析学実習」）

「作業活動分析学実習」で、「生活行為向上マネジメント」の手法を以下の手順で実践した。なお学生同士は2人でペアを組み、お互いに「生活行為向上マネジメント」プログラムをペアのひとりとは“実践者”、もうひとりとは“支援者”の役割となり、それぞれを実践することとした。

1. 学生へオリエンテーションを行い対象者に同意を得た。
2. 下記シートを利用し、「事前情報」「生活行為の目標」についての聞き取りをペアを組んだ学生間で行った。

①「生活行為事前聞き取りシート（学生版と

- して新規作成)」
- ②「生活行為聞き取りシート (学生版)」(臨床用を一部改変)
 - ③「興味・関心チェックリスト (学生版)」(臨床用を一部改変)
3. 「生活状況・状態」の評価をペアを組んだ学生間で実施した。評価指標としては、先行研究(厚生労働省老人保健健康増進等事業)において効果判定に用いられ、その有効性が認められた指標で下記を使用した(指標は一部学生版に改訂して使用した)。
- ①「Barthel Index」(BI)
 - ②「改訂版 Frenchay Activities Index」(FAI)
 - ③「老研式活動能力指標 (学生版)」
 - ④「Health Utilities Index」(HUI)
 - ⑤「主観的健康感」
4. OT協会の作成した「生活行為アセスメント演習シート」により、さらに心身の状況、日常生活活動、日常生活関連活動、環境など個人の全体像を把握した上で生活行為の具体的な合意した目標を決定した。
5. ペアを組んだ学生間で合意した目標に対して、プログラム開始前の実行度や満足度の自己評価を実施した。
6. OT協会の作成した「生活行為向上プラン演習シート」により、合意した目標の達成に向けて、生活行為の分析と「生活行為向上マネジメント」プログラムの立案をペア間で実施した。
7. 「生活行為向上プラン演習シート」に基づいて「生活行為向上マネジメント」プログラムをペア間で実施した(実践は、授業時間外でも実施)。授業内での実施状況は「生活行為向上マネジメント実践記録(授業時間内)」(学生用に新規作成)に、支援者となる学生が実践者について記録し、授業時間外での実施状況は「生活行為向上マネジメント実践記録(授業時間外)」(新規作成)

に実践者本人の学生が記録した。

*プログラムの実施状況については、中間報告会および最終報告会を設けた。

8. 全授業終了時に、再び「生活状況・状態」の評価(3. と同一の評価指標)と自己評価(5. と同様に実行度と満足度)を実施した。加えて、本授業を通して、学生自身が「作業はひとを元気にする」という「生活行為向上マネジメント」の趣旨を実感できたか等についてアンケート調査を実施した。

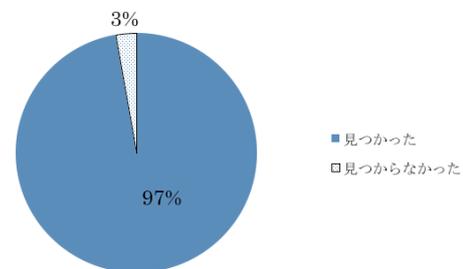
V. 検討方法

学生へのアンケート結果について、学生が「作業」「作業療法」「作業はひとを元気にする」についての理解が深まったか否か、この手法の基礎作業療法学教育への導入の効果・可能性・課題について特に取り上げ検討した。

VI. 結果と考察

授業終了後、学生に対して以下の内容のアンケート調査を行った。

- 1) あなたはこの授業を通して、あなたにとって「意味のある作業(生活行為)」が見つかりましたか?



「授業を通して、意味のある作業が見つかったか」の問いに対して、1名を除いて35名(97%)が「見つかった」と回答した。

- ①見つかった⇒それは何ですか(自由記載)

1-1 料理
1-2 料理をしてみようという意欲が湧き料理をすること
1-3 料理ができるようになった
1-4 野菜の育て方を学んだ
1-5 編み物
1-6 裁縫（やってみたら意外と楽しかった）
1-7 趣味
1-8 ファイルの整理等
1-9 毎日勉強すること
1-10 毎日の体重管理
1-11 旅行をするためにあつての計画を立てる作業
1-12 作業を円滑に終わらせられるようにタイピング活動を行ったこと
1-13 将来の為の勉強、楽しむために運動
1-14 仲間と一緒に遊ぶ、ストレス発散になる
1-15 アウトドアなどのみんなで楽しめること
1-16 ウォーキング
1-17 余暇活動、運動
1-18 適度に運動することで生活リズムがよくなった。
1-19 日々の生活の中で出来る運動
1-20 睡眠不足改善
1-21 習慣を身につけること
1-22 課題への取り組み意識
1-23 人とのつながり
1-24 自分の生活状態が見つかった。
1-25 目標に向けプランを立て実行すること
1-26 目標達成するための手段
1-27 目標のための作業
1-28 目標を意識して日常生活を送ること
1-29 毎日続けることと効果があるということ
1-30 自分の目標を立て、それを達成するために日常生活を送っていく。
1-31 目的のある作業を毎日行うことで何か得るものがある
1-32 毎日目的の作業を続けること
1-33 毎日やること、成果が出ると自信がつく
1-34 頭でわかっていても実行できずにいたが、この授業では行動まで動かしやっていったので、この状態を続けていきたいと思ったからです。

高齢者とは違った「若者にとっての意味のある作業」が抽出されており興味深いものであった。

特に「生活習慣」の乱れている学生がここから多いのに気付かされた。

②見つからなかった⇒原因は何ですか？これからどのようにしようと考えていますか？

<p>・初回では意味のあると思っていた作業が、回を重ねるうちに本当に意味があったのか疑問に思ったから。部屋の片づけにしても、具体的な将来性のある目標を立てられればよかったと思う。</p>

この指摘は興味深い。

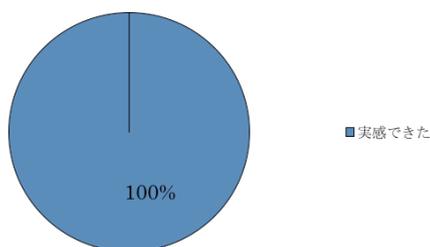
2) あなたはこの授業を通して、あなたの生活行為にどのような変化がありましたか？（生活のリズムができた、毎日の生活に活気が出たなど）（自由記載）

2-1 生活リズムができ、他の人はどのようにして活動しているのか、周りもみるようになった。
2-2 毎日1時間でもやることで、自分の不得意な部分が見えた。また生活リズムが良くなった気がする。
2-3 一定のリズムを作ることができた。
2-4 継続力や生活リズムをつくることができた。
2-5 習慣が身についた。
2-6 決めたことを決めた時間に行うことができるようになった。
2-7 毎日決めたことに取り組むことができた。
2-8 体を疲れさすことによりぐっすり眠ることができて、生活リズムの改善につながった。
2-9 生活リズムは今までと変わらない。
2-10 睡眠不足が改善できた。
2-11 作業速度の向上。睡眠時間の向上。
2-12 毎朝起きれるようになり、遅刻が減った。
2-13 朝ごはんを食べることができた。
2-14 毎日続けることでやる気がでた。
2-15 少し行動しようという気持ちがついてきた。
2-16 明日への期待感がわいていた。
2-17 ポーっとしている時間や気分が落ち込む時間が減った。
2-18 精神衛生的に改善があった。
2-19 毎日の生活が充実していた。
2-20 やらうと思えば毎日しっかり取り組むことができるんだと気付いた。
2-21 意識することで毎日の変化が変わり、長く続けることで大きな変化になる。
2-22 外出する楽しさを実感することができ、楽しみが増えた。
2-23 人とのつながりができた。今まで人とは「狭く深く」と一部のひとしか話さなかったけれど、この授業を通して、一歩踏み出して、話してみれば意外といろんな人たちと仲良くなれたりした。
2-24 さぼりぐせが直った。また、筋力トレーニングをするなど、体力向上、筋力向上など持久力がつき、動きやすくなった。
2-25 駅までや近所のコンビニまで歩く距離が増えた。
2-26 ウォーキングやスクワットをすることで、晩御飯がおいしかった。
2-27 運動しているときはイキイキできた。時間が無駄にならないように考えれた。
2-28 毎日の生活の中で、料理をする機会が増えた。
2-29 キッチンに立つ時間や回数が増えた。
2-30 自分で朝、昼、晩の食事を作る割合が増えた。
2-31 料理をすること、包丁を持つことに抵抗がなくなった。面白さを知った。食べてもらい、おいしいと言ってもらえる喜びを知った。
2-32 勉強をしなければという習慣ができた。
2-33 勉強をしなければという習慣ができた。毎日しないといけない気持ちが毎日でてくるようになった。

2-34 部屋を片付ける習慣がついた。
2-35 目標を立てることで毎日暇をしていた時間を、目標について考える時間に割り当てることができた。

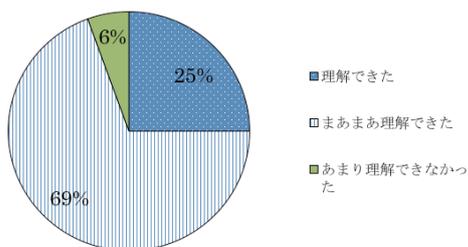
「生活リズムづくり」「生活の変化」「生活の充実感」「人とのつながり」など生活行為上の変化が指摘された。

3) あなたはこの授業を通して「作業は人を元気にする」ことが実感できましたか？



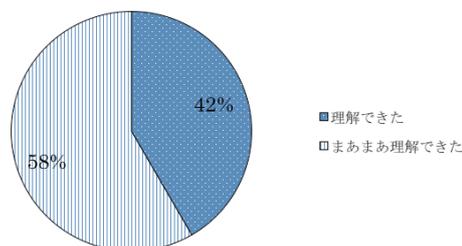
『授業を通して「作業は人を元気にする」ことが実感できたか』の問いに対して、36名全員が「実感できた」と回答した。

4) あなたは“生活行為に焦点を当てた支援”の必要性について、理解できましたか？



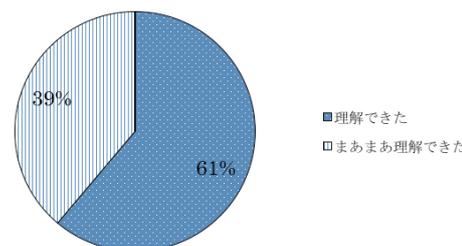
「“生活行為に焦点を当てた支援”の必要性について、理解できたか」の問いに対して、「理解できた」「まあ理解できた」と答えたのは34名（94%）で、「あまり理解できなかった」「理解できなかった」と答えた2名（6%）よりも多かった。

5) あなたは“本人にとって意味のある作業（生活行為）”を見つけ支援することの重要性について理解できましたか？



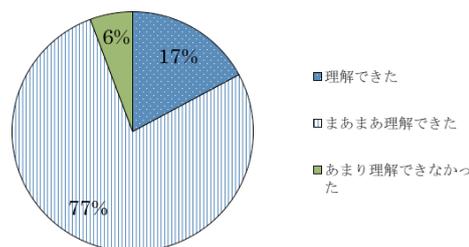
「“本人にとって意味のある作業（生活行為）”を見つけ支援することの重要性について理解できたか」の問いに対して、「理解できた」「まあまあ理解できた」と全員が回答した。

6) あなたは、本人の「したい、やってみたい生活行為」を導き出すことの大切さについて理解できましたか？



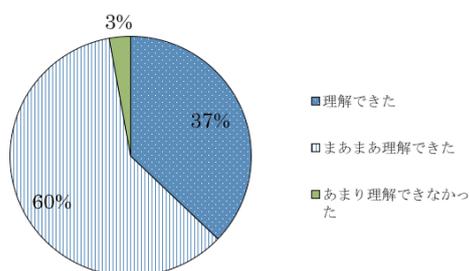
『本人の「したい、やってみたい生活行為」を導き出すことの大切さについて理解できたか』の問いに対して、「理解できた」「まあまあ理解できた」と全員が回答した。

7) あなたは、本人の「したい、やってみたい生活行為」を進めるための3つの支援の支点（人の分析〈健康・心身機能〉、環境の分析〈環境〉、作業の分析〈活動参加〉）について、理解できましたか？



『本人の「したい、やってみたい生活行為」を進めるための3つの支援の支点について、理解できたか』の問いに対して、「理解できた」「まあまあ理解できた」と答えたのは34名(94%)で、「あまり理解できなかった」「理解できなかった」と答えた2名(6%)よりも多かった。

8) 授業内容は全体としておおむね理解できましたか？



「授業内容は全体としておおむね理解できたか」の問いに対して、1名を除いて、35名(97%)が「理解できた」「まあまあ理解できた」と答えた。

9) あなたは、作業療法士となったときに「生活行為向上マネジメント」を対象者にどのように活用できると思われましたか？(自由記載)

9-1 対象者の生活を変化させるきっかけになったり、対象者自身が自分自身を見つめなおす機会になると思った。
9-2 自分の決めた目標に向かって努力し、達成させようとすることの大切さ。
9-3 してみたいことや、今までしていたが出来なくなってしまったときなどを機会に行いたい。
9-4 何がしたい、やってみたいと対象者の人からの発言が無い時でも、困っていること、出来ていないことに焦点を当て、介入していけるのではないかと思いました。
9-5 趣味がある人に対しての、作業療法を行う場合、対象者のモチベーションを高く、療法を行えると思いました。
9-6 対象者自身がやりたいことを目標として実行していくため、楽しみや意欲を持って活動してもらえようようにするために活用できると思った。
9-7 対象者の目標を掲げることで、日常生活を変えていくことができると思った。
9-8 チェックシートや聞き取りを用いて、対象者のしたい生活行為を導き出し、将来性を伴ったゴールを、C1と一緒に考えて実践すること。
9-9 その人がより応用的なことができるように、したいことを聴き、やる気を維持させること。

9-10 QOL、ADLの向上を目指すところで活用していきたい。
9-11 対象者からその人を取り巻いている環境を知ることができ、その人にとっての本当に必要な事がわかり、その人に適切なリハビリテーションを行うことができると思った。
9-12 効果があるということで、続けることで、活用ができる。
9-13 対象になる方は、様々な生活を送られており、一人ひとり異なっている。なので、対象者にあったプログラムを作成することでより生活の向上、活気の向上につなげる。
9-14 対象者がやりたいことを利用しながら、リハビリを行える。
9-15 習慣付ける時などにいいなと思います。
9-16 生活習慣なども変わるし、対象者がどのような事をしたいのか明確にわかり、リハビリの向上になると思う。
9-17 習慣づけを行う。
9-18 患者さんが今できることで何がしたいのかのゴール設定。
9-19 興味・関心チェックシートにて、対象者がしたいことについて考え、必要なプログラムを整理し、まとめることを行う。整理・まとめることによって細かい部分まで考えることができ、より必要性の高いプランを活用できると思う。
9-20 毎日、目標に向けて取り組んでもらえる。
9-21 目標まで明確に達成していけるので、毎日の生活が楽しみになるなど、気分転換ややる気につながる。
9-22 相手のしたいことをできるように支援し、手助けではないが、相手がやる気になり、リハビリや参加等に積極的になれる手段として活用できるのではないかと考える。
9-23 対象者の生きがいを見つけることや、日々の生活の中に楽しみを増えるように活用できると思った。
9-24 目標を達成するために、自分が立てたプログラムを立てることで、毎日コツコツと行うために必要な活力が生まれてくると思う。
9-25 目標を適切に設定することによって、寝たきりや部屋に閉じこもりがちな人に外にでる理由をあたえ、廃用症候群の予防をする。
9-26 対象者のしたいことに近づいているかがわかるようになる。
9-27 回復期などで、リハゴールが一人で料理を作れるようにしたいと決めていた時、それを達成するために必要な行為を毎日していくことで、習慣にもなり、目標を達成できると思いました。
9-28 興味、趣味の拡大や、計画力の向上、自己決定能力の向上に活用できると思いました。
9-29 私は裁縫をしたが、毎日することもなく過ごしている人に、昼間の活動として提供して、生活リズムを正せると思った。作業も楽しいし、完成したときの達成感もあるので、精神的に満たされる。
9-30 今までした事を患者に提供し、目標を立て、一緒に目標を達成する。
9-31 対象者の目標を見つけ、その目標と一緒に考え、一緒に取り組む。
9-32 リハビリでレクリエーションなどに「したい」「やってみたい」などの要望に応え取り入れる。

9-33 毎日やることに意味があると思う。

特に9-19、9-23、9-25の回答をみると、2年次ではあるが「本プログラムのねらいが理解できている」と感じさせられた。

10) 作業活動分析学実習の授業において「生活行為向上マネジメント」演習を実践していく上での、本授業の改善点（わかりにくい点、もっと詳しい説明が欲しい点など）を教えてください。意見や感想、要望など自由に書いてください。

10 授業の改善点
10-1 プリント類などの記入の仕方が少し難しく感じた。
10-2 各種の用紙の説明がもう少し欲しい。例などの参考にできるものもできたらもう少し頂きたい。
10-3 アセスメントシートを記入するときに、「基本的プログラム」が難しかった。お互い健康だから思い浮かばなかった。
10-4 基本的プログラムと応用的プログラムの違いが少しわかりにくく、考えるのが難しかったです。
10-5 授業時間外内容をもう少し細かく書けるようにした方が良いと思う。
10-6 生活行為向上プラン演習シートの生活行為工程分析のところ、実行力と検証完了力の違いがよくわからなかったかなと思いました。
10-7 私個人の話なのですが、生活行為プラン演習シートを理解できておらず、書き方がわかっていませんでした。
10-8 今回の活動を通して、OTになった際、自分はどういうにしてPtの意味のある生活を考え、質問し、プランを考えていけばよいのか、正直な所不安だらけである。しかし、練習してきたことを最大限に活かし、行っていきたいと思う。
10-9 今回は仲の良い友人同士で実践したから上手くいったものの、初対面の人だったら上手くいっていたのだろうか？と不安になった。
10-10 もう少し授業時間が多くてもよいと思った。2限連続など。
10-11 限では時間が不足している。
10-12 一回の授業では2コマ取って、2コマほどの時間がないとできないようなプログラムをするのも良いと思った。
10-13 授業時間が足りないと感じた。
10-14 授業内の実践時間がもっとあった方が良かった。一度の実践でなく複数回目標を立ててやりたかった。
10-15 「生活行為に焦点を当てた支援」の意味が理解できない。
10-16 合意した目標に対して立てたプログラム立案に対して、そのプログラムが適しているかどうかの指導がもっと欲しかった。
10-17 目標を掲げる時、途中で変更するときの方法がわかりづらかった気がする。
10-18 目標を決めたけど、対象者がなかなか実践に実行しない場合、どのような方法で実行させたらいいのか。

10-19 歩行と書くときに、具体的な距離は測るのが難しいので、マップでのだいたいの距離でもいいのか？

これら19項目は、本授業の改善作業に向け、検討されるべき内容と考えられた。

11 授業の意見、感想
11-1 私の目標は勉強で、家でも勉強だったので少し嫌だった。もう少し楽しいものにすればよかったと後悔したが、今となっては勉強でよかったです。
11-2 相手への支援の仕方をもっと早く行うべきだった。
11-3 特になし。
11-4 プログラムを考えて提供するの、プログラムを実施するのも、どちらも達成感が合って充実していた。
11-5 全体的に楽しく授業が行えたのでとてもよかったです。
11-6 ペアになり活動するのは楽しく、目標達成に向かっているという達成感なども感じられてよかった。
11-7 自分たちで自由に目的を持った目標を立てられるので楽しく感じた。
11-8 すごく楽しませて頂きました。
11-9 わからない所があれば、わかるまで教えてくれるので、特にないです。
11-10 普段何もないとしない散歩をして、良い体験をしたと思った。大学周辺にあんな場所があったんだなと思うことがたくさんあった。
11-11 今まではその日にやろうと思っていた勉強をやっていたが、前もって週や時間で勉強内容を決めておくと、実践しやすいと感じることができた。
11-12 自分たちで、目標を決めて、自由にプログラムを計画して行える点では楽しかったです。
11-13 プランを考えていく上で、具体例がプリントとして配られていたので、理解しやすく、自分では伝わっていると思っていることでも具体的に書けていないことがわかり、自身の改善点がわかってよかったです。
11-14 先生は初めての内容なのにわかりやすく教えてくれて満足でした。わからないことを聴くと易しく相談に乗ってくれ良かったです。
11-15 おもしろい授業で、対象者側も、支援者側も経験できて良かったと思いました。

全体的に“楽しい、わかりやすい”という評価であった。

VII. 結論

授業終了後のアンケート結果より、97%の学生が授業を通して、意味のある作業が見つかったと回答し、100%の学生が授業を通して「作業は人を元気にする」ことが実感でき、“本人にとって意味のある作業（生活行為）”を見つけ支援することの重要性について理解できたと

回答した。また、94%の学生が“生活行為に焦点を当てた支援”の必要性について理解ができ、本人の「したい、やってみたい生活行為」を進めるための3つの支援の支点について理解できたと回答した。

これは、本授業によって、学生の「生活行為向上マネジメントに対する理解が深まったと考えられ、「生活行為向上マネジメント」の手法が、学生の基礎作業療法に対する理解へのさらなるツールとなり得ることを示唆している。

また、「授業内容は全体としておおむね理解できたか」の問いに対して、97%が「理解できた」「まあまあ理解できた」と答えた。

しかしながら、学生の指摘にもみられるように、授業の実施手順や内容等については改善点が示唆された。

謝辞

本研究は、平成26年度大阪河崎リハビリテーション大学の大学共同研究費の補助を受けて実施したものである。

[引用文献]

1) 平成19年度老人保健事業推進費等補助金(老人保健健康増進等事業分, 身体運動科学と作業療

法学手法による生活行為向上プログラムの開発・介入研究—介護予防通所介護の共通サービスのために—。特定非営利活動法人地域保健研究会, 2008.

2) 平成23年度老人保健健康増進等事業, 生活行為向上マネジメントの普及啓発と成果測定研究事業報告書。社団法人日本作業療法士協会, 2012.

3) 平成24年度老人保健健康増進等事業, 生活行為向上の支援における介護支援専門員と作業療法士との連携効果の検証事業報告書。一般社団法人日本作業療法士協会, 2013.

4) 竹内さをり, 榎森智絵, 他: 通所事業所・老人保健施設における実践。作業療法ジャーナル2013, 47(5): 400-403.

5) 岩本昌子, 村井千賀, 他: 認知症の早期支援における実践。作業療法ジャーナル47(5): 404-409, 2013.

6) 大庭潤平, 小林正義, 他: 地域における新たな作業療法の展開—生活行為確認表と興味・関心チェックリストを用いた高齢者のニーズ調査。作業療法ジャーナル2013, 47(5): 423-428.

7) 社団法人日本作業療法士協会(監), 岩瀬義昭, 大庭潤平, 他(編): “作業”の捉え方と評価・支援技術。生活行為の自律に向けたマネジメント。医歯薬出版, 2011.